

# 流

3月～5月のメモ

活動メモ

自主刊行物・機関紙

雑誌論文・単行本

五月の新聞

石川三四郎「西洋社会主義運動史」

構成・戸駒恒世

次の文章は、東京地区月例交流会で世話人・西京二氏が配布したピラより転載です。

交流会の設定に当って、僕達は①アナキズムを自身の理念・思想・行動の原理とする集団・個人の行動上・理論上の相互交渉・認識の場とし、②更に、具体的な行動への共同の取り組み、理論的探求の相互批判による視点の豊富化の場を作るものとして考えていた。

①の、東京周辺でのアナキズム「運動」への試みが、どう存在しているのかを知ると云う事は、今迄の段階で果せたと考える。しかしそのアナキズムの内実を参加者各々

だろう。

②の行動への取り組みは、僕達の「知的な作業が、どれ程の有効性を持つのかを知るために必要なことだ。5・1、メーデー中央会場での宣伝行動は、約二十人位の参加者もあり、行動自体は貴重なものだったが、内容としては、ただ集まったにすぎない位の低調さに終始した。

それは何故か、形式的には、①行動の提起から行動までが短時間で準備が不足した。

が明らかになったかを問えばまだ不十分である。例えば、個人の生きさまの倫理としての：とするものから無政府共産主義あるいはアナルコサンジカリズム、またそのりした歴史的な枠組みを超えたものとしてアナキズムを創ろうとする、そうした方向のどこに自らを位置づけてアナキズムを語るのかと云った事。この点の一つの方向へ集約する為にはなく、より現実的方向を探るために、もう少しはっきりさせる必要がある。

だがそれが視えたとしても、それ自体が社会を撃つにはまだ不十分な期待に過ぎないのだから、問題を深める研究を課題別に相互の関連を持ちながら進める必要がある。74春斗を妥協的ではあれ、組織労働者のみの生活防衛の最低線は確保しながらも、労働官僚の取り引きのワク以上に闘った組織労働者大衆に、彼ら独自の行動のバネを示すものにはならなかったし、又未

組織労働者の結集の軸となるような具体性も持ち得なかったといったことなのだ。

更に日常の問題として、自治管理・労働

者評議会、あるいはコミュニケーションといった、部分的には実際に試みられ、未来社会の展望である問題に、現在アナキズムは運動として何の寄与もしていない。こうした力の不十分さがメーデーでの僕達の低調さの底にある。

機関誌・紙 / 自主流通誌・紙

3月

黒光 10号

「関西無政府主義活動者会議(準)に対する展望」1 五木武利

○京都市伏見区小栗栖中山田町五〇

三〇〇四〇二

黒光社

だらしねの旗 0号

「天皇制テロル」 「亜州」 杉原哲生

○大阪市旭高殿郵便局留 だらしね舎

リベロー 15号

○京都市左京区田中門前町28の5

リベロー社

長野共同新聞 14号

「人と自然と自然観」 富田八郎

○長野市高田中村沖3の3 守田荘

長野共同新聞社

長野共同新聞 15号

「我々はベトナムを忘れない」 富田

リベロー 51号

「ラディカルとアナキズム」 山中邦久

「パトスの神話」1 小田光雄

○東京都練馬区大泉学園町2190

萩原晋太郎方 リベローの会

サルートン通信159号

○大阪市阿倍野区旭町9の12の2

泉原文化10号 向井孝

長野共同新聞 16号

「天皇制との出会いとその意味」 笠原

邦樹

浦和市民新聞 11号

「ベルサイユのバラ論」 小沢遼子

○浦和市岸町4の24の15 浦和市民新聞社

れんげ通信 3号

「大逆事件再審ならず」

○宇治市宇治蓮華95北村方 大江音人

4月

リベロー 16号

リベロー 52号

蘇生 14号

「コミニティーへの視座」 大友映男

「現代的に見た仏教説理」 長谷川武

○東京都練馬区谷原3の9の27 小守方

「蘇生」編集局

かわら版 4月号

特集「むすめと若者の性をめぐる民族の

知恵」

○京都市左京区木野町137 精華短大

片桐ユズル

浦和市民新聞 12号

「警察は日教組に対する弾圧をやめよ」

5月

黒旗の下に 1号

「オールドとヤングの対話」

○東京都文京区後楽2の7の5啓衆ビル

4 Fランチョ気付 「黒旗の下に」

イオム 5号

「まぼろしの新聞ゼネスト」和田英太郎

○神戸市葺合区上筒井通8丁目22の6

前田幸長方

サルトーン通信161号

「状況としての自由連合・その意味」

リベルテール 53号

「選挙で救われるか」 杉藤二郎

リベロー 17号

「朝鮮人アナキスト烈伝」1 尾関弘

長野共同新聞 17号

「自衛隊慰問拒否の立場とは何か

アナーキ 12号

「カーの「バクニン」像をめぐって」

今井順子

○東京都新宿区東大久保一の四六四

バルカン社気付 アナーキズム研究会

イオムの会資料(その2)

「亡命ブルガリア・アナキスト・ユニオ

ンによるアンケート」 イオムの会  
アナキズムの科学的根拠 (其の発展の一  
章)

5月

○東京都東村山市野口町1の15の8

武良二

Memoire sur la situation

politique japonaise(1967

—73)

江口幹

× × ×  
雑誌論文

4月

アナキズム文学史 秋山清

小説「日月ふたり」3 瀬戸内晴美

マルクスのブルードン批判 佐藤茂行

ポードレールとブルードン 西川長夫

思想 4月号

特集・アナキズム

高尾利数・笠原芳光・判沢弘・秋山清

植田拓次・田村秀夫・佐藤清・土方直史

片桐稔晴・川崎次・クロボトキン・大沢

正道・ウドコック・ヴァネーゲーム・江口

幹 現代思想 4月号

人間が、いかにして人間をとり戻すか

さらば文部省

5月

テロリスト古田大次郎の生と死 秋山清

歴史と人物 5月号

ニヒリズムそしてテロリズム 秋山清

竹中英太郎推論 藤川治水

思想の科学 5月号

強さの思想としてのウェーバーとマルクス

林道義 思想 5月号

× × ×

3月

新刊書籍

権威と権力 なだいなだ

岩波新書

4月

「赤と黒」の詩人の自伝 三冊

詩人の運命 岡本潤

激流の魚 壺井繁治

奇妙な本棚 小野十三郎

以上 立風書房

思想史を歩く(下) 朝日新聞社

高群逸枝と「女性史学」 村上信彦

大杉栄とアナキズム 秋山 清 他

小説・黒い花 立野信之 社会思想社

5月

山鹿泰治・人とその生涯 向井孝 青蛾房  
風土からの黙示 松本健一 大和書房

『西洋社会運動史』 石川三四郎

黒色戦線社刊・復刻

× × ×

△編集部より▽

▽本欄の充実をはかるため、種々の情報交換をお願いします。個人・グループで発行されている新聞や雑誌、パンフレット、ピラを本誌編集部に送って下さい。相互の刊行物の交換を原則としたいと思います。

送り先 東京都文京区本郷一の二四の七

現代思想社内 越境の会気付

▽次号より、意見の交流の場となる欄を企画しています。本誌への感想、批判をはじめ、個別的な運動、研究テーマ、主張など、またそれらの相互的な批判の場としていきいたいと考えています。

▽本誌への投稿は、まだ具体的な要項を検討していません。投稿を呼びかけていませんが、早い時期に募集を行ない、投稿による誌面の活性を企てていきたいと思ひます。

「いまの若者たちは一体どうやって社会主義運動史を学んでいるのだろうか。マルクス主義こそ本当の社会主義である。という教条主義にいかれて、マルクス主義運動史、それもマルクス→レーニン→スターリン→毛沢東という最も教条主義的にとらえられたマルクス主義運動史を読めば、他は知らなくてもよいということなのだろうか。」

国に比べて遅れている。目下はこの三十年の遅れを取り戻すべく、個別研究の領域でいわば「原始的蓄積」を行っている段階なのかもしれない。それにしても、の想いがしないでもないが、日本人が書いた社会主義運動史のあらたな出現には、まだかなりの時日を要しそうである。

その点からいえば、この本の覆刻にはそれなりの現在の意味がある、ということになるだろう。もちろん、不足をいえばいくつもその例を挙げることはできる。それはこの本が一九二〇年代以前の欧米の研究の成果の上に成り立っているのだから、当然である。だが、巻末の引用書目をみても分るとおり、この本は当時の一般の研究書をかなり幅広く渉猟して書かれており、一派の教条主義にそれほど毒されていない。

「たしかに、とくにスターリン批判以降、社会主義運動史の分野でも「自由化」が進み、教条主義の呪縛は緩んでいる。個別の研究、たとえばサンジカリズム運動、バリ・コミューン、バブーフ蜂起、ロシア革命等々については、二十数年前に比べて質量ともに格段の進歩がみられる。だが、それらの研究をふまえた社会主義運動の通史はまだ書かれていない。」

いわば当時としては最高の水準を行く通史だったのである。それ以後、今日にいたるまで、一党一派に偏せず、欧米の諸研究を自由に駆使した通史はついに現われずじまっていた。それは自由な研究態度で書かれた、おそらく最初にして最後の社会主義運動史なのである。」

一九三〇年代から五〇年代まで、戦争、占領、スターリン主義という三重の桎梏の下に日本の歴史研究は、約三十年、西欧諸

社会主義運動史 本書解説より抜粋